Living the LOTUS
Buddhism in Everyday Life
3
2020
VOL. 174

開祖随感

仏になる道

法華経は、仏になるための教えといってもいいでしょう。では、どうしたら仏になれるのか。いつも申し上げるように「若し法を聞くことあらん者は一りとして成仏せずということなけん」と仏さまは断言しておられるのですが、そう聞いて、「ただ聞くだけで、仏になれるのですか」と尋ねる人がいました。

「聞く」とは、心の底から「そのとおりだ」と納得することなのです。それには、耳で聞くだけ、知識を蓄えるだけではだめなのですね。一つでもいいから真剣に聞いて、聞いたらそのとおりに実行する。すると、自分の一念で三千世界が変わる真理のはたらきがありありと実感できるのです。

人さまをお救いしたいという慈悲心で活動したことのない人は、仏教の本当の教えの尊さがなかなか分かりません。教えのとおりに一つでも実行してみると、だれもが本当の喜びを味わえます。立正佼成会の五十三年の歴史が、それをはっきりと証明しています。その菩薩行を一つ一つ積み重ねていけばいいのです。真剣に人さまのために打ち込むと、自分をしばっていた固定観念や身構えがほどけて、仏性が輝き出てきます。人さまを仏の道へお導きすること、それが自身仏になる道です。

（『開祖随感』9, P. 94-95）

Living the Lotus
2020年3月号（Vol.174）

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537　東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp
編集責任者: 齋藤高市
編集チーフ: 長田健祐
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑛会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life（法華経を生きる～生活の中の仏教）というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

会長法話

満足できる幸せ

立正佼成会会長　庭野日鑛

欲をはなれると

「欲深き人の心と降る雪は　積もるにつけて道を忘るる」

季節は暖かな春を迎えようとしているなか、寒々しい響きの道歌ですが、この歌のとおり、欲の皮が張っていると、人は、人として歩むべき道をいつしか見失ってしまいます。

今月、創立八十二周年を迎える本会を、開祖さま（庭野日敬）とともに開いた脇祖さま（長沼妙佼）は、逆に、常々「欲をはなれると徳がくる」と話していたそうです。

欲は自然のものですから、生きるうえでは必要なのです。ただ、必要以上に欲が深い人は、「あれがほしい」「これも自分の思うとおりにしたい」と私利私欲にとらわれるあまり、人への思いやりが二の次になりがちです。心が、「我」=「自分のこと」でいっぱいの状態だからです。

ところが、何ごとにつけ、ほどほどのところで満足できる人は、人のことを考えるゆとりもありますから、たとえば好物が手に入っても「一人で食べてはもったいない。人にも分けてあげよう」という気持ちが自然に湧いてきます。そもそも、ほどほどをわきまえている人にとって、必要以上のものは欲しないといえましょう。

そうした人間らしい思慮や、他を思いやる気持ちが行動となってあらわれることを、脇祖さまは「欲をはなれると徳がくる」といったのだと思います。それは、人間がもともともっている徳分が、自然に滲み出るということです。

感謝こそ

法華経の「見宝塔品」に、法華経の教えを学び、実践する人は、ほんとうの意味で精進する人であって、「是れを戒を持ち　頭陀を行ずる者と名く」とあります。

辞書によれば「煩悩を振るい落とし、払い除く」のが「頭陀」の意味で、一日一食を守るとか、ボロ布で作った衣を着るなど、そのための精進が「頭陀行」です。

頭陀行といえば、「頭陀第一」と呼ばれた摩訶迦葉が思い浮かびます。摩訶迦葉は「衣や食や寝床などに、いっさい文句をいわず、満足する者である」と伝えられています。

現代の私たちには、実践するのが難しいように思えますが、「何ごとに対しても、不足を口にしないで満足する」というのは、授かったものに感謝して、自分勝手な「よしあし」をいい立てないということです。それに、頭陀行をごく簡単に「少欲知足」と説明する文献もありますから、欲を少なくして足ることを知る生き方、与えられたものをできる限り素直に受け容れて、感謝のうちに暮らすことは、私たちが日ごろから心がける姿勢と重なるものです。

また、自分自身の容姿などについて、それがなんであれ「よしあし」をいうのは、「自分の命に対する不殺生戒をおかすことになる」と学んだことがあります。その意味では、何ごとにも「よしあし」をいわない生き方は、先に述べた経文の「戒を持ち」ということにも一致します。しかも、それができるのは、法華経を学ぶことで感謝に目ざめるからだと受けとめられます。だとすると、法華経をとおして仏の教えを学ぶ私たちは、いつでも「満足できる幸せ」のただなかにいるといっていいのかもしれません。

しかし、そのように理解していても、ものごとを感謝で受けとれないときがあります。そうしたときには、合掌・礼拝などの「形」から入ることも大切です。

たとえば、食事の際に「いただきます」といって合掌するのは、その習慣によって、食事が摂れることや食材の命、さらには生きていることへの感謝の心が育つともいえるのですから。

生きていくなかで、授かったすべてに合掌する――そこに感謝と喜びがあり、ほんとうの満足と幸せがあるのです。

（『佼成』2020年３月号）

仏さまの慈悲に抱かれて

サンフランシスコ教会
粕谷 りさ

この体験説法は、2019年9月29日に行なわれた、
サンフランシスコ教会発足40周年式典で発表されたものです。

皆さま、お願い致します。

本日はサンフランシスコ教会発足40周年記念というおめでたい日に、説法のお役をいただき誠にありがとうございます。

私は、1965年、粕谷家の長女として生を受けました。和歌山県で育った子ども時代、私は海外を紹介するテレビ番組が好きで、国際的な生活に憧れ、高校生の時に海外で暮らすことを決意しました。

高校卒業後の一年間、椎間板ヘルニアの治療のため、地元で入院と通院の日々を送った後、私は晴れてサンディエゴの大学に留学することができました。はじめのうちは、英語で学ぶことは非常に困難に思えましたが、環境学を専攻し、無事に大学を卒業することができました。卒業後は、日系の書店でアメリカでの最初の職を得ました。その頃、私は合気道を習っていたのですが、そこで後に夫となる男性と出会い、2年ほどお付き合いをした後、結婚しました。

サンフランシスコ教会で説法をする粕谷さん

結婚生活はとても幸せでした。夫と共に家を購入し、2人の娘にも恵まれ、子どもの頃に思い描いていた海外での暮らしが実現しました。

子どもを授かってからは、私は子育てにかかりきりで働けなかったため、夫が一人で家計を支えてくれました。警察署麻薬取締部の刑事をしていた夫は、勤務時間の不規則な日が多いため疲れていたにもかかわらず、休日にはガードマンとして働き、住宅ローンの返済と家族4人の生活費を一人で担ってくれました。

結婚して8年ほど経ったある日、夫はしばらく一人になりたいと言って家を出て、アパートを借りて暮らし始めました。私は娘二人と自宅での生活を続けていましたが、半月ほどすると夫からの連絡が途絶えてしまいました。

子どもたちを父親に会わせなければと思い、当時6歳と4歳の娘を連れ、夫のアパートを訪ねました。しかし、留守なのか応答がなく、会えずに帰ることが何度も続きました。管理人に夫が本当に住んでいるのか尋ねたこともありましたが、何も答えてはもらえませんでした。

連絡が途絶えてから1ヵ月以上経ったある日、ドアスコープから自分の姿が見えないようにしてドアをノックすると、夫は玄関脇の窓から外を覗きました。その時、夫の姿を見つけた長女が「ダディ!」と叫びまし

た。娘たちには父親が窓越しにこちらを見ていることがとても不思議なようでした。夫はというと、私たちを見つけて非常に驚いた様子でした。

中からバタバタと部屋を片付ける音が聞こえ、しばらくして静まると、夫は玄関のドアを開けて私たちを中へ入れました。娘たちは久々に会えたお父さんに直ぐには近づきにくい様子でしたが、夫はハグをして話しかけていました。その間、私が寝室に入ってみると、ベッドシーツが剥がされていて、ベッドの下にイヤリングが落ちているのが見えました。

私がそのイヤリングは誰のものかと聞くと、夫は突然、私と離婚すると言い放ちました。私はそれまで、夫が一人暮らしをするのは仕事が忙しいからだと信じていました。その夫からのあまりに唐突な言葉に、私は頭の中が真っ白になり、返す言葉が見つかりませんでした。その日、夫のアパートから自宅まで、泣きながら車を運転して帰ったことを今でもはっきりと覚えています。

当時、私は働いていなかったため収入がなく、夫婦共有の銀行口座の残額は底を突こうとしていました。私の頭の中は「先ず私と子どもたちの生活費を確保しなければ」という思いで一杯になり、3台あった自家用車のうちの1台を売り、カリフォルニア州のチャイルドサポートサービスに夫の給与から養育費を差し押さえてくれるように申請しました。

娘たちが夏休みに入ると、私は例年のように二人を連れて和歌山の実家に帰省しました。夫との状況を両親に伝えると、母は何も言わず、ただ悲しい顔をするだけでした。父はくも膜下出血で倒れたときの後遺症で、当時、要介護度4の状態でした。その父がベッドに横たわりながら涙を浮かべていた姿を今も忘れることができません。

私は娘たちの夏休みが終わる2ヵ月後にはアメリカに戻る予定でしたが、アメリカでの今後の生活の見通しがつかず不安だったことや、夫を許せない思いもあったため、帰りの航空券が有効な6ヵ月間、実家で生活しながら日本で暮らす可能性を探ってみることにしました。

実際、私は塾の講師やウエイトレスをして生活費を工面しました。父の介護医療費がかさみ、私の実家も経済的余裕がなかったのです。母は父の介護に追われ、子育てを助けてもらうのは到底無理でした。

娘たちは地元の幼稚園に通いました。幼稚園の行事の時など、ほかの園児には両親や祖父母が見に来ていましたが、私の子どもたちには母親の私しかいませんでした。お友達と遊ぶのが大好きだった次女が、日が過ぎるにつれ、幼稚園に行きたくないと言うようになりました。ある日、幼稚園に迎えに行くと、次女が「私にはママがいる」と独り言のように呟くのが聞こえました。「お父さんはいないけど、お母さんはいる」と自分自身を励ましているかのようでした。当時、娘は二人とも「お父さんに会いたい」と口に出しては言いませんでしたが、寂しそうな、そして不安そうな表情を見せることがありました。私は、やはり子どもたちは父親が身近に感じられる環境で育てるべきだと思うようになりました。

そんな折、私宛に夫の弁護士から書類が届きました。そこには、私が娘たちを誘拐したとして、夫がサンノゼ市の警察に捜索願いを出していることが書かれていました。私は驚いて地元の弁護士に相談しました。その弁護士によると、夫が娘たちを取り戻しに日本に来たとしても、私と娘たちは日本の法律で保護されているため、二人を夫に引き渡す必要はないものの、もしアメリカの警察が捜索に来た場合には、手が出

せないとのことでした。私は、娘たちの養育や夫との関係を考え、二人をカリフォルニアで育てていく決心をし、航空券の有効期限が切れる前日の12月15日にアメリカに戻りました。

カリフォルニアの自宅に到着すると、長女が車から降りて玄関のドアを叩き、「ダディ!」と叫びました。すると、家の中から夫の同僚が出て来たのですが、すぐにドアの鍵を締めてしまいました。車に戻って来た長女からそのことを聞き、私は自ら自宅の玄関のドアを開けようとしました。ところが、玄関の鍵はすでに取り換えられており、家に入ることができませんでした。中に夫がいるのが感じられましたが、ドアを開けてはもらえませんでした。

温暖なカリフォルニアとはいえ、12月中旬の屋外は冬の寒さです。私たちは駐車した車の中で2時間待ちました。その間、玄関の前で娘たちは「ダディ」と何度も呼びかけましたが、ドアが開くことはなく、夫はとうとう家から出て来ませんでした。すると、驚いたことに、そこにギルロイ市の警察官が現れ、「子どもたちをシェルターへ連れて行く。明日迎えに来なさい」と言いました。私は「その必要はない」と伝えましたが、その警察官は私にホテルに泊まるよう指示し、子どもたちをサンノゼのチャイルド・シェルターに連れて行ってしまいました。

私はもしものときに備えて、日本にいる間に前もってサンノゼに宿泊先を探しておいたため、その晩はそこに泊まり、翌日二人をチャイルド・シェルターに迎えに行きました。朝の7時から11時まで待たされたあげく、係の人から「裁判が終わるまで母親には会わせられないので、子どもたちは父親に引き渡しました」と言われました。私はその時、今後娘たちにもう二度と会えなくなるのではないかと、不安で胸が一杯になりました。しかし、その場ではどうすることもできず、一人で宿泊先に戻るしかありませんでした。

それから10日後、一回目の裁判が行なわれました。私はとても不安でしたが、娘たちに会いたい一心で裁判に臨みました。裁判の結果、週4日娘たちと一緒に過ごすことが認められました。

その後、離婚調停のため裁判所にほぼ2〜3ヵ月に一度出廷する状態が3年間続きました。その間、弁護士への報酬など裁判のために費やした金額は5万ドルに上りました。当時、私は働いていなかったため、収入はチャイルドサポートサービスを通して、夫の給与から毎月一定額を受け取るのみでした。私は弁護士費用を工面するため、生活費を切り詰め、一軒家の一部屋を借り、そこに娘たちと3人で住んでいました。裁判にかかった費用は、私には本当に無駄な出費としか思えませんでした。

最初に依頼した弁護士には報酬として月に1000ドル支払っていましたが、その働きは微々たるものでした。離婚調停はダラダラと長引き、私はカモにされているから、その弁護士に頼むのを早く止めるようにと、知人や友人から忠告を受けました。私との面会中に弁護士が友人らしき人と電話でバケーションの予定を話しているのを見て、私はその弁護士を頼りにするのを止めました。

その後、私は自分で書類を作成し、調停に臨むようになりました。裁判所の関係者から「あんな母親に子どもの養育費を払う必要はない」などと中傷されたり、私の質問や申し込みに全く応じてもらえなかったりするなど、外国人であるためか、不公平で不当な扱いを受けたこともありました。

離婚調停の終了が近づくと、どうしても弁護士が必要になり、二人目の弁護士を雇いました。その弁護士

が作成した養育費や財産分割を記した書類に不備があると、会計士である私の知人が指摘してくれたため、私はその弁護士に「修正してほしい」と申し出ました。すると、その弁護士は、仕事に言い掛かりをつけたと言って、一方的に私の弁護を打ち切ってしまいました。現に、その書類にあるべき一文が抜けていたために、養育費を月700ドル下げられてしまい、生活は困窮し、子育てにも大きく影響しました。

さらに、ある日突然、私は自分の銀行口座にアクセスできなくなりました。二人目の弁護士が、私に未払いの弁護費用があるという理由で、借金回収専門の弁護士を雇って私の銀行口座を凍結したのです。クレジットカードとローンで生活費を工面しながら、何度もそれらの弁護士と裁判官に、2人の子どもを扶養する生活費が必要だと訴えましたが、その甲斐もなく、9000ドルの支払いを命じられてしまいました。

弁護士や裁判所への不信感に加え、元夫と彼のガールフレンドから嫌がらせを受けたことや、不安定な居住や経済状態が続いたことで、私の心は不安や疑念や憎悪に加え「裁判には必ず勝つ」という思いで一杯でした。精神的に、私はドン底の状態でした。

そんな中、私は以前勤めていたサンノゼ市の日本語学校で再び働くようになりました。そこで、当時、サンノゼ支部の副支部長をされていた小川ユキさんと出会いました。小川さんも離婚経験者だと知り、私の離婚の問題や苦しい心情を打ち明け、助言をいただくようになりました。小川さんは仕事で忙しい中、いつも親身になって話を聞いてくださいました。私の心の中が裁判のことや生活のこと、娘たちの教育のこと、そして自分自身のことで一杯だった時、「負けてもいいじゃない。泣いてもいい人生はあるわよ。闘わなくていいのよ」と私を導いてくれました。小川さんには心の内をそっくり話すことができ、小川さんが私の手を取って一緒に歩んでくださったおかげさまで、当時の大変苦しく困難な人生の難所を乗り切ることができました。今思うと、仏さまは苦難の中にいる私に、小川副支部長さんを通して、救いの手を差し伸べてくださったように感じます。

その後、立正佼成会に誘っていただき、2010年に初めてサンフランシスコ教会を訪れました。教会のあるパシフィカの町は私の故郷和歌山県南紀に似ており、訪れるだけでホッとしました。教会に入ると、お線香の香りが静寂なホールに漂い、柔和な笑みを湛えたご本尊さまを眺めていると、スーっと心の中の暗雲が消えていきました。長本教会長さんは、とても気さくに教会に来ることを勧めてくださいました。私は、小川副支部長さんのお導きにより、初めて教会を訪問したその日に、入会のお手配をいただきました。

教会では、サンガの皆さんとご供養をし、根本仏教の勉強をし、そして法座で話し合うことで、仏教の教えを興味深く学ばせていただきました。日曜参拝に通うようになり、よく冗談を交えてお話しされる長本教会長さんのご講話に聴き入りました 。

次に赴任された永嶋教会長さんの説法は「幸せ」がテーマで、本当の幸せとは何か、どうしたら幸せになれるかを教えてくださいました。中でも、幸せになる4つの言葉――「ありがとう」「ごめんなさい」「すばらしい」「うれしい」――を日常的に使うと幸せになれると説かれていたことが印象的でした。

そんな単純な言葉が幸せとどう結び付くのか不思議でしたが、とにかく実践してみました。すると、これらの言葉を口にすると、自分の心が明るくなるのを感じました。そして、言葉をおかけした方々の表情が明るくなると、それがまた私の心を明るくしました。離婚後、

堅く閉じていた心の扉が、徐々に開いていくのを実感し、自分らしさを取り戻していくことができました。

私の心が変化すると、私のまわりの環境も変化し始めました。永嶋教会長さんが英語での説法に果敢に挑戦されていることに感化され、私のチャレンジ精神に火がつき、おかげさまで仕事の管理職資格を取得することができました。ディレクターに昇格し、収入も増えました。

サンフランシスコ教会には日本語を話す会員さんたちも来ておられました。私は、二人の娘たちに教会の方々との交流を通して、日常会話や礼儀、和を重んじる日本文化を学ばせたいと思い、娘たちのお友達も誘うなどして、二人が教会に行くことを楽しいと思えるようにしようと努めました。

後にお友達が来なくなると、娘たちは「オバさんオジさんばかりでつまらない」と言いながらも私と一緒に教会に通い続け、最近はご供養でお役を果たし、法座にも入り、イベントでは主力として活動しています。教会の中で、娘たちは協力することや役割を果たすことの大切さを学ばせていただいています。二人には今後も仏教を学び理解し、これからの人生に活かして欲しいと願っています。

有り難いことに、サンガの中には子育ての先輩もおられ、有益な情報や助言をいただくことができました。日本育ちの私はアメリカで子育てをすることに不安を感じていましたので、とても心強く思いました。

長女の中学校と高校の卒業式には、小川副支部長さんが私と一緒に参加してくださいました。長女がミス・カリフォルニア・ティーン・コンテストに出場した時は、サンガの皆さんが出場のための資金集めに協力してくれたり、舞台で使う装飾品を貸してくれたりと、様々な応援をしてくださいました。カリフォルニア大学への進学が決まった時も、長女の努力を認めて褒めてくださいました。

次女の中学校の卒業式には、永嶋教会長さんがご夫婦で来てくださいました。次女はバレエを10年間習っていて、年2回、プロ公演にも参加しています。サンガの皆さんはチケットを購入して見に来てくれました。花束を渡してくださったり、何度も来てくださった方もいます。

離婚調停が行なわれていた当時、私は自分と子どもたちを守ることしか考えず、裁判に決して負けまいと、元夫を責め続けていました。今、振り返って思うのは、当時、どれだけ元夫が私たちの生活を守るために頑張ってくれていたかということです。今では元夫が置かれていた状況に心を振り向け、彼に感謝できる私に生まれ変わらせていただくことができました。私が2人の娘の母親にならせていただけたのも、彼のおかげです。

思えば、離婚問題で人生のどん底にいた私が、今このように生活していられるのは、小川副支部長さんから「闘わずに、負けても、泣いてもいい人生はあるよ!人さまに合わせ、信じて、実行すると、ミラクルがある。泥沼に咲く花のような人生もいい」と明るく、笑顔で掛けてくださった言葉に、心の底から励ましていただいたおかげさまです。

私は仏教に慣れ親しんで育ったつもりでしたが、知識は浅く、信仰者には及びもつかない状態でした。しかし、心が折れそうになった時、小川副支部長さんをはじめ、サンガの皆さんがしっかり手を取ってくださり、自分でも「負けても、泣いてもいい人生がある」と考えられるようになると、それまでの人生観が一変し、ほのかながら新しい人生観が私の心に芽生えました。そして、現象の見方を変え、安心して教えを信じ、行じた結

果として、私は今の生活をいただけたのだと思っております。

立正佼成会とのご縁をいただいて9年間、私と娘たちは、立正佼成会の教えとサンフランシスコ教会のサンガの皆さんに見守られ、育んでいただいたおかげさまで、ここまで来ることができました。

人生のどん底にいた時、私の言葉にできない苦しみに耳を傾け、励まし、人の言葉をなかなか素直に聞くことのできない私に、辛抱強く手を取ってくださった小川副支部長さん、本当にありがとうございました。私の願いは、小川副支部長さんのように、人生に迷い、辛く苦しい思いをしている人を救うお手伝いができる菩薩にならせていただくことです。

いつも温かく迎えてくださったサンガの皆さま、ありがとうございました。今いただいている人生はサンガの皆さまのおかげさまと、心より感謝しています。

私も娘たちも立正佼成会とのご縁に日々感謝しつつ、このご縁を今後の人生を通してより多くの人々に繋いでいきたいという思いで一杯です。そのために、今後も娘たちと共に精進させていただきます。

教団創立100年、サンフランシスコ教会50周年に向けて、布教伝道、手どり・導きに精進させていただくことをお誓いたします。

皆さま、ご清聴ありがとうございました。

法座に参加する粕谷さん

法華三部経
各品のあらましと要点

妙法蓮華経
勧持品第十三（後半）

勧持品二十行の偈

この品で特に大事なところは、最後にある、いわゆる〈勧持品二十行の偈〉（昔の漢字だけの経文には、四句を一行にして二十行に書かれていたため、こう呼ばれた）です。日蓮聖人が、この偈に述べられていることが、一つ残らずご自分の身にあらわれてきたことによって、「われこそ末法の世に法華経を説きひろめる使命をもって生まれたものだ」という自覚を得られたというのは、有名な話です。その二十行の偈の大意は、およそ次のとおりです。

「わたくしどもは、仏さまを心から敬まっておりますから、仏さまが最高の教えであるとお説きになるこのお経を、仏さまと同じように敬います。それゆえに、この法華経を守り、説きひろめるためには、外部から加えられるもろもろの迫害や困難をじっと忍びます。わたくしどもは、命など惜しいとは思いません（我身命を愛せず）。ただ、この無上の教えに触れない人が一人でもいることが、何よりも惜しいのでございます（但無上道を惜む）。

世間の一般大衆の無理解からくる軽蔑も、他の宗派の専門家たちの敵意からくる迫害も、高い地位をかさに着てこの教えを意識的に無視したり押しつぶそうとしたりする人の力をも、すべて畏れはばかることなく、どんな所へでも行ってこの法を説きましょう。

わたくしどもは、まさしく世尊の使いでございます（我は是れ世尊の使なり）。誓って全力を尽くし、正しく法を説きひろめます。仏さま、どうぞ心安らかにおぼしめしくださいませ」

三類の強敵

ここに、法華経に対する三種の大敵があげられています。現代は信教の自由の世の中ですから、二千年前のインドにおいて法華経を信ずるグループが受けたような、あるいは七百年前に日蓮聖人が体験されたような迫害はありませんが、現代的な形において、やはり似たようなものが存在します。

第一を〈俗衆増上慢〉といって、法華経を読んだこともなく、内容もほとんど知らないくせに、それを独善的な教えだと非難したり、その信者を軽蔑したりする一般大衆です。これは、過去における法華経信者にも一半の罪があるわけですから、われわれは、それを反省し、法華経のみを独善的にふりかざしたり、政治的に利用したり、あまりにも現世利益的に説くことをつつしみ、あくまでもその本義に則って、おだやかさの中に芯の強さのこもった、信仰者らしい態度でそれを説かねばならないのであります。

第二を〈道門増上慢〉といって、他宗教・他宗派の人たちが、あたまから敵意をもって、法華経の真意を理解しようとしない態度です。宗教特に仏教の大事な精神の一つに、寛容ということがあります。過ちを犯した者をも許し、すべての人をいだきとるのが宗教です。

それなのに、教義の表面における相違や、信仰上の所作の違いによって、感情的に他宗教・他宗派を敵視するのは宗教者とはいえないのです。

そういう人たちに対して、もしわれわれ法華経行者が目くじらを立てて抗争するならば、われわれ自身が寛容の精神を踏みにじることになります。どこまでも忍辱の態度をもって、そのような人たちが宗教の本義に目覚めるように、粘り強い努力を続けねばならないのです。

第三は、〈僭聖増上慢〉といって、宗教界・学界において高い地位にあり、世の尊敬を受けている人が、その状態に陶酔し、あるいはその地位を守ろうとして、正しい教えをないがしろにすることです。ほんとうに偉い人だったら、「これこそ真実の教えだ」と知ったなら、敢然としてそれを支持するはずですが、心の狭い人は、えてして新しく打ち出された教えにそっぽを向いたり、よりすぐれた教えをけむたがったりするものです。そういう場合、「あの人は偉い人（聖）だ」という世間の信用や尊敬を意識的に利用しがちで、その影響力はたいへん大きなものがありますから、この〈僭聖増上慢〉は三つの増上慢のうちで最も悪質なものとされています。

われわれは、何もまっこうからそういう増上慢に対抗する必要はなく、自分の信ずる真実の教えを、あくまでも正道を踏んで広宣流布していけばいいのです。真実の教えは不滅だからです。一方、もしわれわれがそのような地位になったとしたら、決してそのような増上慢に陥ることなく、常にみずみずしい頭脳と、柔軟な心をもって、若い人の意見や考え方を受け入れ、消化するように心がけねばならないと思います。

不惜身命（ふしゃくしんみょう）

この偈の中にある〈我身命を愛せず　但無上道を惜む〉というすばらしい対句から、法華経行者の合言葉である〈不惜身命（ふしゃくしんみょう）〉が生まれました。

もちろん現代人の〈不惜身命〉は、生命そのものを惜しまないというのではなく、自分の個人的な利益を意に介しないということになりましょう。すなわち「時間や、労力などは少しも惜しくない。また、世間の人たちがどんな目で見ようと、どんなことをいおうと、少しも畏れはばかることはない」……ということです。

なぜそういう気持になるのかといいますと、真理（妙法（みょうほう））を惜しむからです。この無上の教えに触れない人が一人でも残っていることが、惜しまれてならないからです。それぐらいの純粋な気持になってこそ、ほんとうの法華経の行者ということができるのです。

（庭野日敬著『法華三部経　各品のあらましと要点』
佼成出版社, 2016年［初版 1991年］, p. 136-141）

Living the LOTUS

Director's Column

満足できる幸せ

教団創立の月を迎えました。82 年前、開祖さま、脇祖さまによって立正佼成会が創られていなかったら、今頃私は、どこで何をしていただろうかと考えると、本当に有り難いと感じます。

今月号のご法話で会長先生は「欲をはなれると徳がくる」という脇祖さまのお言葉を引用くださり、いま与えられているすべてに感謝していくことによって、欲をはなれ満足できる生き方ができると教えてくださいました。

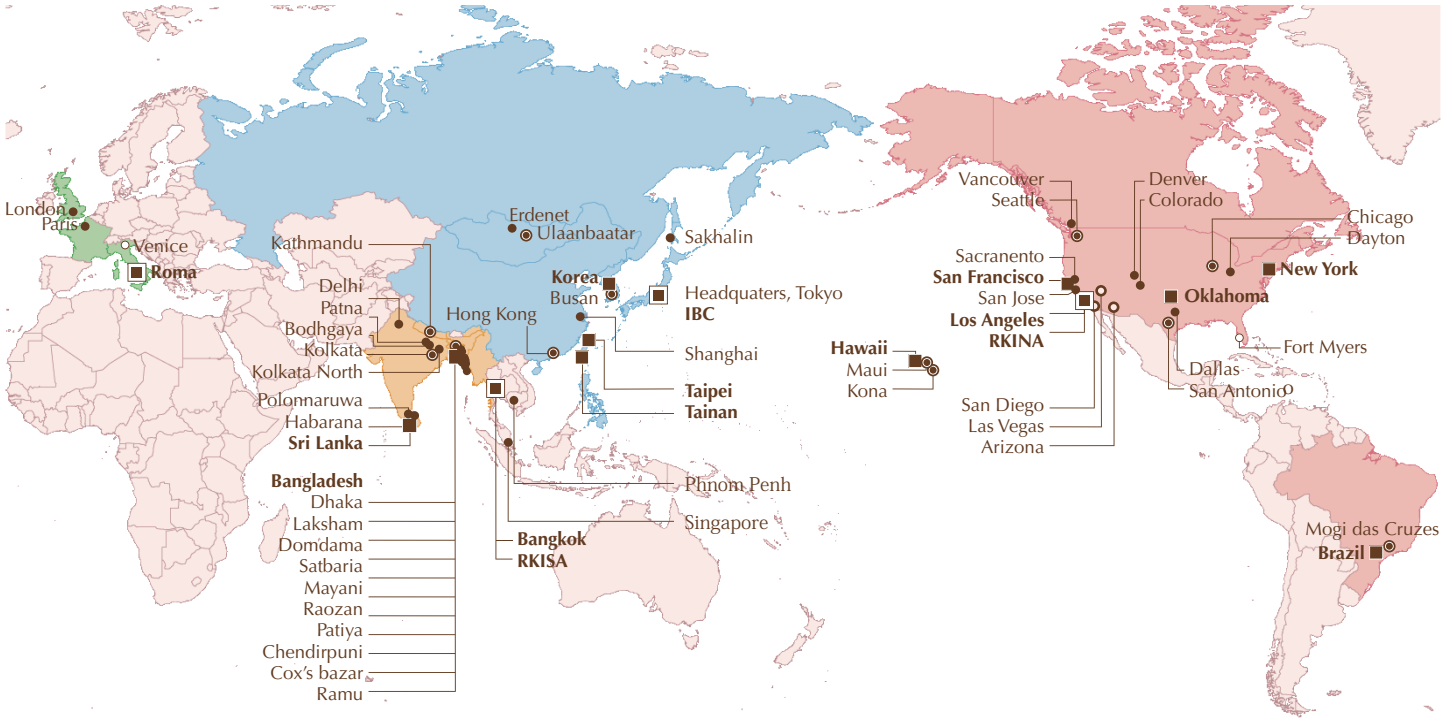
開祖さまの教団創立の願いは、「一人でも多くの人に法華経に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにしていただきたい」ということでした。

報恩感謝の行ないとして、今月はより一層、お導き・布教伝道に努めさせていただきたいと思います。

国際伝道部長
齋藤 高市

Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
TEL: 1-808-455-3212FAX: 1-808-455-4633
Email: info@rkhawaii.org URL: http://www.rkhawaii.org

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center
1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center
73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles
2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
POBox 33636, CA 90033, USA
TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
Email: rk-la@sbcglobal.net URL: http://www.rkina.org/losangeles.html

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco
1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
TEL: 1-650-359-6951 FAX: 1-650-359-6437
Email: info@rksf.org URL: http://www.rksf.org

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco
Rissho Kosei-kai of Sacramento
Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York
320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: http://rk-ny.org

Rissho Kosei-kai of Chicago
1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
TEL: 1-773-842-5654
Email: murakami4838@aol.com URL: http://rkchi.org

Rissho Kosei-kai of Fort Myers
URL: http://www.rkftmyersbuddhism.org

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma
2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
Email: rkokdc@gmail.com URL: http://www.rkok-dharmacenter.org

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver
1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton
617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
URL: http://www.rkina-dayton.com

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)
2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437
Email: info@rkina.org URL: http://www.rkina.org

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio
(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
(Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA
TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745
Email: dharmasanantonio@gmail.com
URL: http://www.rkina.org/sanantonio.html

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center
28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261
Email: rkseattlewashington@gmail.com
URL: http://buddhistlearningcenter.org

Rissho Kosei-kai of Vancouver
Please contact RKINA

Risho Kossei-kai do Brasil
Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
Email: risho@rkk.org.br URL: http://www.rkk.org.br

Facebook: https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil
Instagram: https://www.instagram.com/rkkbrasil

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes
Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓国立正佼成会
〒 04420 大韓民国 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓国立正佼成会釜山支部
〒 48460 大韓民国釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會
台湾台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大厦 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongjheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會
台湾台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata
E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center
Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Rissho Kosei-kai of Central Delhi
77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo, Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Rissho Kosei-kai Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai Mayani
Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh
Rissho Kosei-kai Damdama
Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh
Rissho Kosei-kai Patiya
China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria
Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni,
Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka
408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham
Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar
Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Rissho Kosei-kai Raozan
Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"
4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong
Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar
(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district, Ulaanbaatar 15160, Mongolia
(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet
2F Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum, Orkhon province, Mongolia

Rissho Kosei-kai di Roma
Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK
Rissho Kosei-kai of Paris
Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)
166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: http://www.ibc-rk.org

Published by Rissho Kosei-kai International